

3.外来患者への対応

松阪中央総合病院
感染管理認定看護師
前川晃大

本日の内容

- 1) 通常診察時の感染対策
- 2) トリアージ
- 3) 発熱患者の対応
- 4) 新型コロナウイルス感染症を疑う場合の対策
個人防護具の選択
(診察時、エアロゾルが発生しやすい行為を行う場合)

1) 通常診察時の感染対策

新型コロナウイルス感染症患者と接触したときの状況 (注1)	曝露のリスク	健康観察 (曝露後14日目まで)	無症状の医療従事者に対する就業制限	
マスクを着用している新型コロナウイルス感染症患者と感染性期間中に長時間(注2)の濃厚接触あり				
医療従事者のPPE	PPEの着用なし	中リスク	積極的	最後に曝露した日から14日間
	サージカルマスクの着用なし	中リスク	積極的	最後に曝露した日から14日間
	<u>サージカルマスクは着用しているが眼の防護なし</u>	低リスク	自己	なし
	サージカルマスクは着用、眼の防護もしているがガウンまたは手袋の着用なし	低リスク	自己	なし (体位変換などの広範囲の身体的接触があった場合は14日間)
	推奨されているPPEをすべて着用	低リスク	自己	なし

医療従事者の曝露のリスク評価と対応

1) 通常診察時の感染対策

マスクを着用していない新型コロナウイルス感染症患者と感染性期間中に長時間(注2)の濃厚接触あり				
医療従事者のPPE	着用なし(注2)	高リスク	積極的	最後に曝露した日から14日間
	サージカルマスクの着用なし(注2)	高リスク	積極的	最後に曝露した日から14日間
	サージカルマスクは着用しているが眼の防護なし	中リスク	積極的	最後に曝露した日から14日間
	<u>サージカルマスクは着用、眼の防護もしているがガウンまたは手袋の着用なし</u>	低リスク	自己	なし (体位変換やリハビリなどの広範囲の身体的接触があった場合は中リスクとして14日間)
	推奨されているPPEをすべて着用	低リスク	自己	なし (注3に該当する場合は中リスクとして14日)

Interim U.S. Guidance for Risk Assessment and Public Health Management of Healthcare Personnel with Potential Exposure in a Healthcare Setting to Patients with 2019 Novel Coronavirus (2019-nCoV) 2020年4月15日版をもとに作成し改変

1) 通常診察時の感染対策

標準予防策の徹底

- 医療従事者は、少なくともサージカルマスクを着用する。患者との接触前後の**手指衛生**を確実に行う。



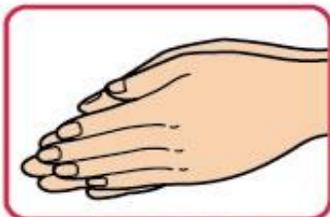
正しい擦式手指消毒の方法

手指消毒手順 (アルコール消毒ジェル) © SARAYA CO., LTD.

SARAYA
<http://www.tearai.jp/>



① ジェル状の速乾性手指消毒剤を適量手の平に受け取る



② 手の平と手の平をこすり合わせる



③ 指先、指の背をもう片方の手の平でこする(両手)



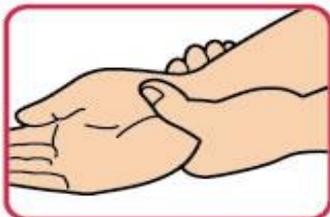
④ 手の甲をもう片方の手の平でこする(両手)



⑤ 指を組んで両手の指の間をこする



⑥ 親指をもう片方の手で包みねじりこする(両手)



⑦ 両手首までていねいにこする



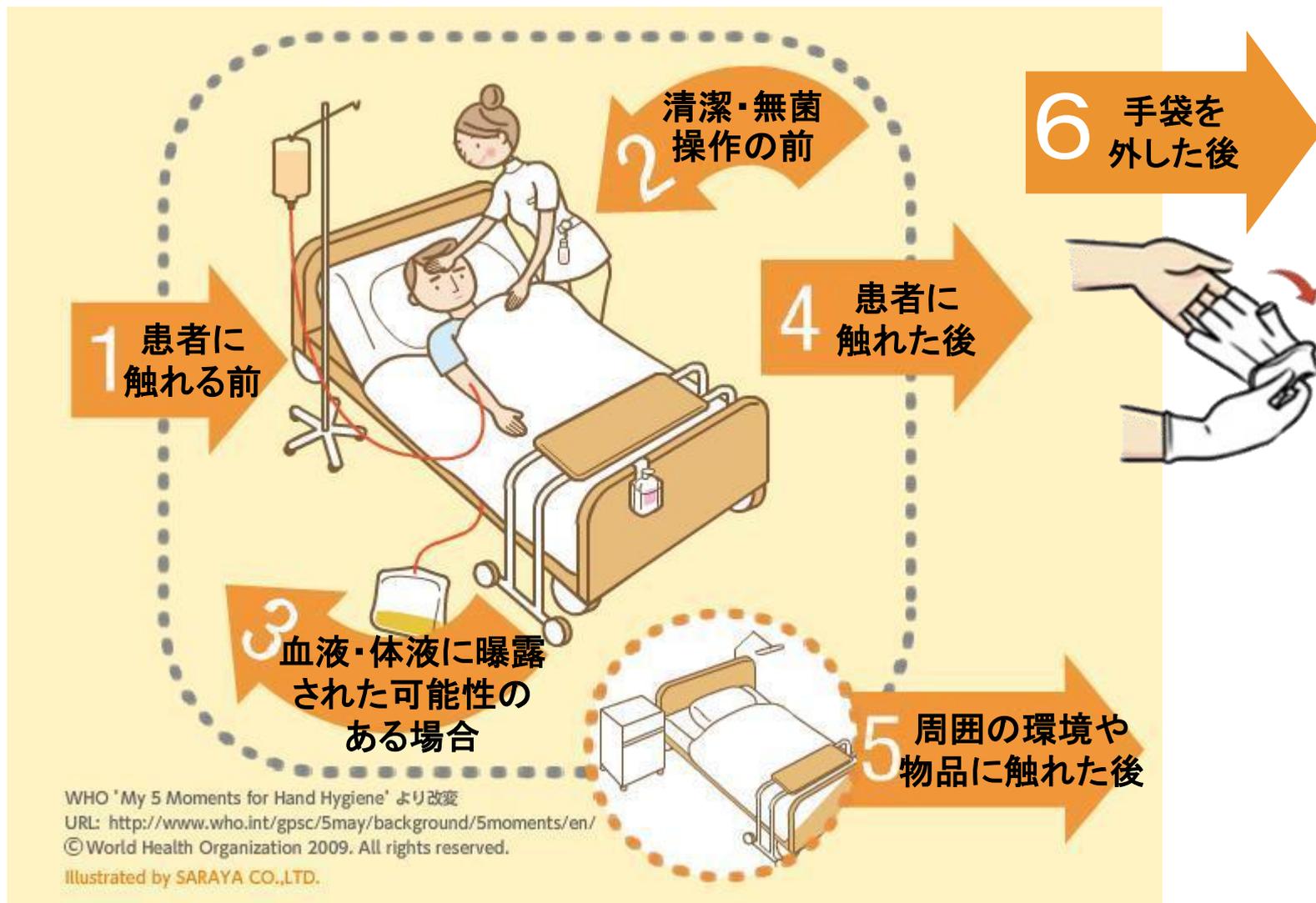
⑧ 乾くまですり込む

ジェル状速乾性手指消毒剤の使用上の注意

- ノズルの先が詰まるおそれがあります。ノズルの先に触れないよう、ポンプをゆっくり押してください。
- 長時間使用しないとノズルの先が詰まる場合があります。目に見えて固まりがある場合、固まりを取り除いてください。

1回使用量: 2プッシュ(500円玉)

WHO手指衛生の5つのタイミング



2) トリアージ

発熱トリアージ

- 患者にはサージカルマスクを着用してもらう
- 正面玄関出入り口で体温測定や問診により有症状者を確認する
- 問診は問診票を用いて新型コロナウイルス感染症を疑う症状のほか、行動歴や周囲の状況など必要な情報を確認する
- 必要時感染症室にて対応する(待機場所に案内する)

多職種で情報共有し連携がとても重要

※新型コロナウイルス感染症を疑う症状

- 発熱、咳、呼吸困難、全身倦怠感、咽頭痛、鼻汁・鼻閉、味覚・嗅覚障害、目の痛みや結膜の充血、頭痛、関節・筋肉痛、下痢、嘔気・嘔吐など

※問診内容

- 発熱・咳・呼吸苦・倦怠感・咽頭痛・鼻水・味覚障害・嗅覚障害・頭痛・下痢の有無など
- 海外渡航歴・流行地域への移動の有無
- 同居者・職場・学校で同類の症状はないか

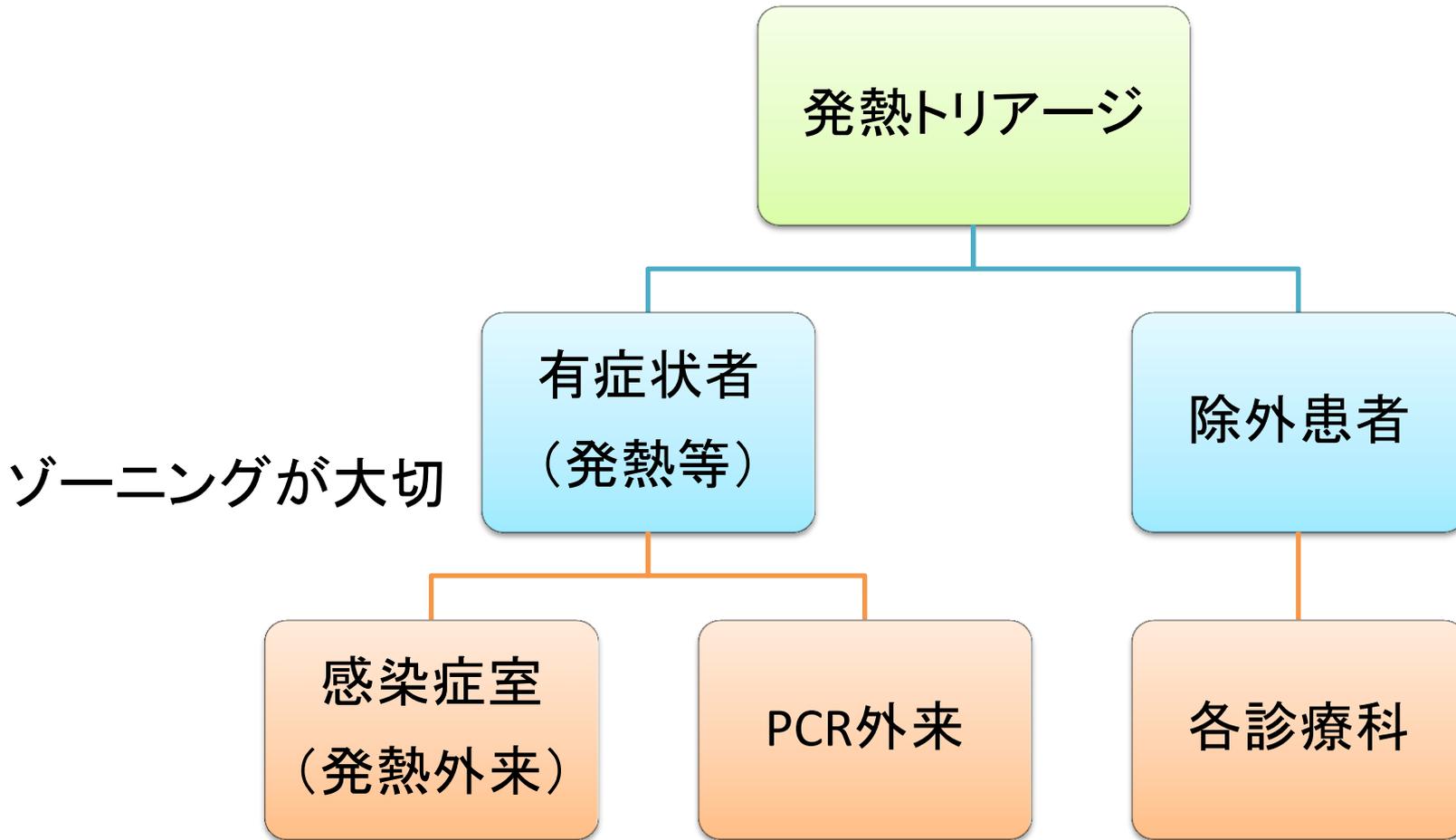
トリアージの注意点

- 全ての医療機関に新型コロナウイルスの感染者が受診する可能性がある。
- 病院入口や受付などで新型コロナウイルス感染症を疑う症状の有無について、**体温測定**や問診票を用いて確認する。

※ 体温測定

- 非接触式の場合（外気温に影響することがある）
- 通常の体温計使用後アルコールで消毒する

3) 発熱患者の対応



CTスタッフはガウン、マスク、ゴーグル、手袋にて対応

4) 新型コロナウイルス感染症を疑う 場合の対策

標準予防策に飛沫予防策と接触予防策を追加

- ・ウイルスを含む飛沫が目、鼻、口の粘膜に付着するのを防ぐ
- ・ウイルスが付着した手で目、鼻口の粘膜と接触するのを防ぐ



眼鏡は、ゴーグルの代わりにはなりません

4) 新型コロナウイルス感染症を疑う 場合の対策

個人防護具の選択

- 手袋、サージカルマスク、ガウン、キャップ、ゴーグルまたはフェイスシールドなど、眼、鼻、口を覆う個人防護具を装着する。
- エアロゾルが発生しやすい行為を行う場合N95マスクを追加して装着する。

* エアロゾルが発生しやすい状況：気管挿管・抜管、気管切開、NPPV装着、心肺蘇生など

疑いの程度が強い患者

例えば

- 症状のある濃厚接触者
- 発熱や呼吸器症状があり、酸素飽和度が低下している患者
- 胸部CT検査で特徴的なすりガラス影が見られる患者など

新型コロナウイルス感染症とみなし個人防護具を着用して対応する

個人防護具の着脱 1

新型コロナウイルス（N95なし） 着用

ポイント①
シールドマスク
→ キャップ
の順に着ける



ポイント②
手袋でガウンの袖を覆う

新型コロナウイルス（N95なし） 脱衣

① ガウンと手袋は一緒に、裏返しながらか脱ぐ。



ガウンの表面をつかみ、



首のうしろ部分をちぎる。



裏が表になるように、



素手で表にふれないように



小さくまとめて、



捨てる。

② 手指衛生 ③ キャップ→シールドマスクの順に
顔に触れないように外す。 ④ 手指衛生



②と④の手指衛生忘れずに！ 顔に触れない！ 丁寧に手順通り脱ぐ！

個人防護具の着脱 2

新型コロナウイルス (N95あり) 着用

気道分泌物の吸引、気管挿管、NPPV装着、気管支鏡検査、心肺蘇生を行う可能性がある場合はN95マスクを使用する。

ポイント①

N95装着後はユーザーシールチェック



- a. 両手でマスクを覆う
- b. 息を強く吐き出す
- c. マスクと顔の隙間から空気が漏れないことを確認する

完成形



ポイント②

N95→シールドマスク→キャップの順



ポイント③

手袋でガウンの袖を覆う

新型コロナウイルス (N95あり) 脱衣

①ガウンと手袋と一緒に、裏返ししながら脱ぐ。



ガウンの表面をつかみ、



首のうしろ部分をちぎる。



裏が表になるように、



素手で表にふれないように



小さくまとめて、



捨てる。

②手指衛生 ③キャップ→シールドマスク→N95の順に
顔に触れないように外す。

④手指衛生



②と④の手指衛生忘れずに！ 顔に触れない！ 丁寧に手順通り脱ぐ！